

岩崎純一総合アーカイブ（IJCA）資料の保管場所マップおよび移動計画

作成者：岩崎純一、岩崎純一学術研究所

作成開始：2017年1月1日 公開：2019年3月3日 最終更新：2019年10月12日

目次

0. 凡例

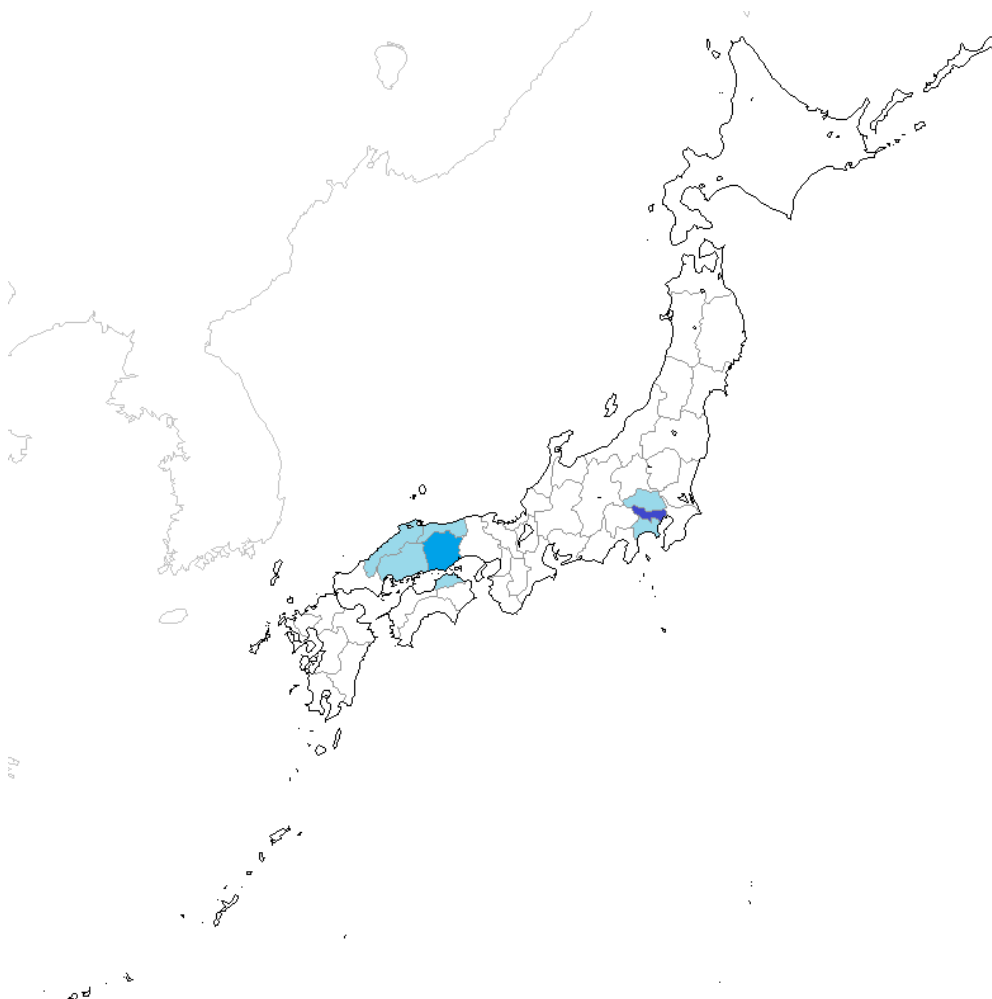
- 1. IJCA 資料の保管地域 (1) 全国マップ (2) 東京地域 (3) 岡山地域
- 2. 解説と資料移動計画 (1) 全般 (2) 平成30年7月豪雨以前 (3) 平成30年7月豪雨以後

0. 凡例

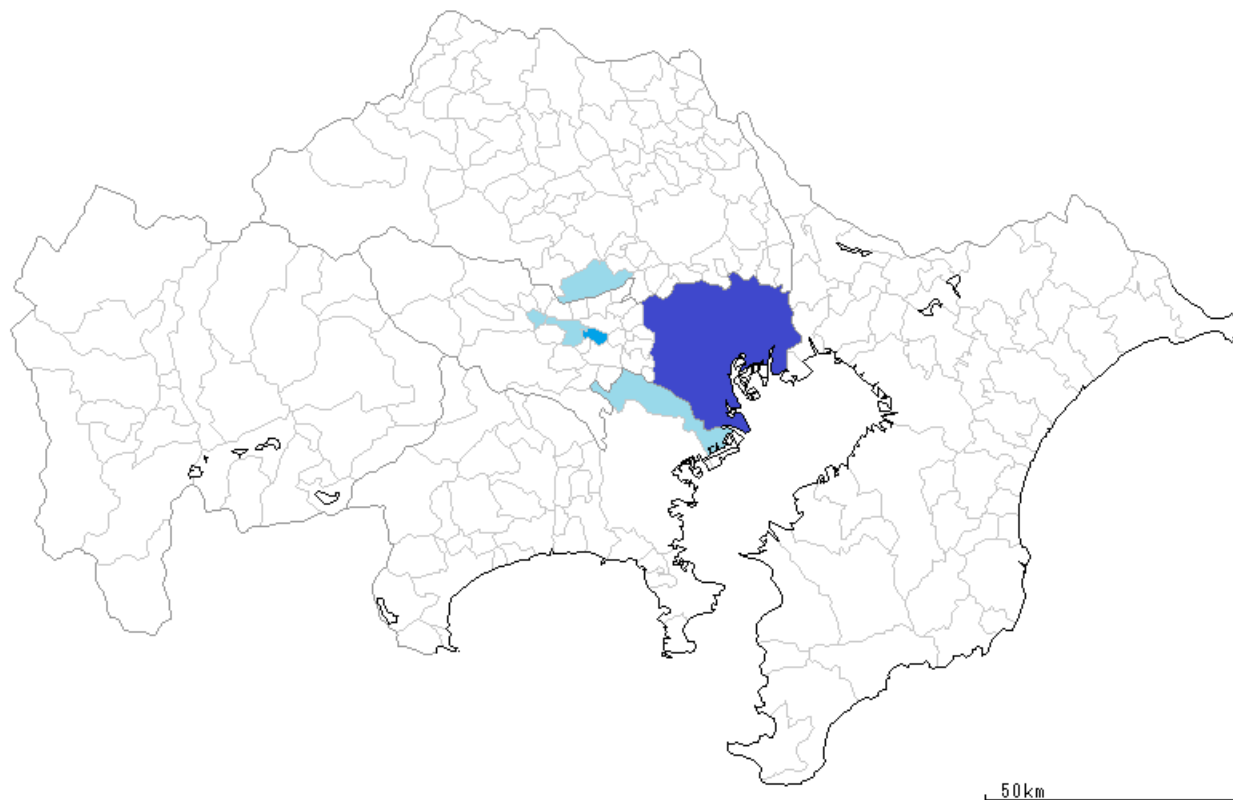
● 資料の数が～

■ : 1～99点 (タイトル) ■ : 100～9,999点 (タイトル) ■ : 10,000点 (タイトル) 以上

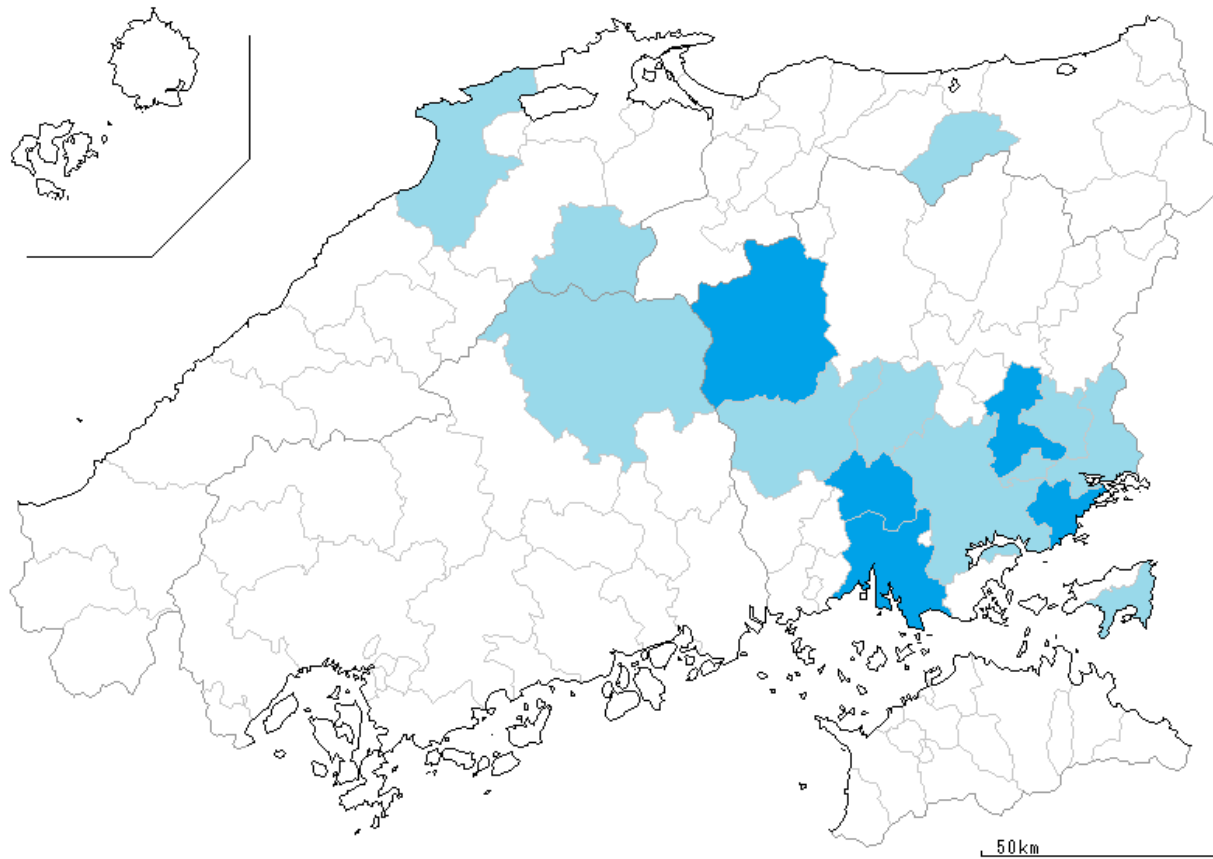
(1) 全国マップ



(2) 東京地域



(3) 岡山地域



2. 解説と資料移動計画

(1) 全般

● IJCA・IJCW・IJDC・IJAI の～

- 本拠地は東京都 23 区である。武蔵野地域、所沢市、川崎市は、主に女性資料の分散保管地域である。
- 他の中心地は岡山県（総社市、倉敷市、新見市）とその隣接県の一部地域である。主に【2 系】以外の資料、特に【5 系】、【6 系】の貴重資料（史料・典籍）の一部を岡山とその隣接県の神社・社家の巫女等が保管する。

これらの資料の所有権は、「資料所有・研究の後継者には岩崎が望ましい」と考える巫女、社家子女、歌道家子女等の意志によって、既に岩崎が保持するが、占有権は、「下記のような家系廃絶までは、資料が巫女等自身の手により研究されることが望ましい」と考える岩崎の意志によって、今なお巫女等が保持する。

(2) 平成 30 年 7 月豪雨以前

- 上記【5 系】、【6 系】資料（岡山にあるもの）を管理する巫女・歌道家等の家系は、女子しか産まれておらず、家の中心は 10 代～40 代の女子で（50 代以上の世代は婚姻により他家の人となっている）、当主（中心的継承者）となる男系男子が不在であり、高い確率で近い将来における自然な、または計画的な廃絶が予定されている（序巻、第六巻を参照）。そのため、唯一無二の家宝・家伝・秘伝が断絶するおそれがある。これらの資料の一部を託された岡山市出身・東京都在住の私人である岩崎としては、保管上の安全対策は喫緊の課題である。

まず、各家系が断絶し資料の保管が不可能となるか、断絶を見越して資料の保管を断念するたびに、当該資料を岡山県内の近接地域の別の巫女等の居住地（の資料保管場所）に移動する。その後、それらのまとまった資料を（新幹線などでの東京への陸路運搬が容易な）岡山駅に近い総社市、倉敷市、瀬戸内市に集約し、最終的には東京に全資料を集約する予定である。基本的には、スタッフによる運搬を予定している。運送業者による貴重典籍用の運送サービスの利用は、現在は検討していない。

この時、現行の学校教育法・教育基本法等の思想とは異なる IJAI（岩崎とスタッフ）の学究精神を体現し、私的研究の道を開拓するため、可能な限り大学等への寄贈は行わず、物権の全部を岩崎が保持し、岩崎の私蔵とする。

(3) 平成 30 年 7 月豪雨以後

- 標記の豪雨災害の影響は下記の通りであり、また、(2)の計画も以下の通り変更する。変更点以外は、(2)の計画に同じである。（2018 年 7 月 11 日～8 月 16 日に追記。）

- 地元民によると、小田川の堤防の決壊・越水により浸水した真備地区の平地部・路傍の物的史料（石碑など）には、壊滅・流失したものもあり、史料保存・研究の点からも致命的である。
- 但し、現地の巫女等が管理する IJCA 資料で、浸水・流失したものはない。真備地区や高梁川東岸地域（清音方面）の IJCA 資料は、真備地区の浸水直後に秦、豪溪、日羽、吉備津へ移動させたため、無傷である。しかし、岡山市北区高松、一宮、花尻などでも浸水、土砂崩れが発生しており（マスメディアは真備地域ばかり放映しており、移動後に判明）、吉備津については大変危険であった。但し、移動した資料については、真備地区や清音に戻さず、そのまま移動先に保管。（岩崎へは事後報告あり。）
- 矢掛方面の IJCA 資料は、ここが豪雨地域ではあったが浸水地域ではなかったため、影響・問題はなく、そのままとどめ置いた。（岩崎へは事後報告あり。）
- 新見地域の IJCA 資料は、ここも豪雨地域ではあったが浸水地域ではなかったため、影響・問題はなく、そのままとどめ置いた。（岩崎へは事後報告あり。）

但し、今回の災害を踏まえ、東京への移動が確定するまで、なるべく総社、倉敷（とりわけ高梁川・小田川沿岸地域）と岡山市北区の桃太郎線沿いへ移動・滞留しないこととした。
- 御津国ヶ原における旭川の堤防の決壊については、以北地域（旭川沿岸地域）の県内の IJCA 資料が存在しないため、影響はなかった。
- 砂川の決壊・越水により浸水した岡山市東区平島、榎原～福治、西大寺北部地域の IJCA 資料は、瀬戸内市に移動し、無傷である。但し、同じく元に戻さず、そのまま移動先に保管。（岩崎へは事後報告あり。）
- 資料の移動前・移動時は、とにもかくにも天気予報・気象情報を確認する。



※国土地理院提供の図から作製

◀岡山県倉敷市真備町地区の浸水域と浸水の深さを示した推定図（国土地理院、2018年7月10日）▶



《岡山県岡山市東区の浸水域を示した推定図（岡山県調査、山陽新聞、2018年8月03日）》

※ 本資料は、IJCW 序巻第一編第七部として挿入する。小見出しも、章・節などに読み替える。

白地図出典：CraftMAP (<http://www.craftmap.box-i.net/>)